

令和7年度 事後評価シート

【事務事業シート】

当初	事 項	病院事業会計貸付金								予算主管課		総務課	
	事 業 概 要	病院事業の経営を安定させるため、一般会計から貸付けを受ける。								始期			
										終期			
	K P I	当初計画にない追加の借入を行った件数											
		KPI種別	下がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度			
		R 4 年 度		目標値	0 件	目標値	0 件	目標値	0 件	目標値	0 件		
		実績値	件	実績値	0 件	実績値	0 件	実績値	0 件	実績値	件		
		ストック /フロー	フロー	達成率	100 %	達成率	100 %	達成率	100 %	達成率	%		
		コ ス ト		最終現計 予算額	3000000 千円	最終現計 予算額	3000000 千円	最終現計 予算額	4500000 千円	最終現計 予算額	千円		
				決算額	3000000 千円	決算額	3000000 千円	決算額	4500000 千円	決算額	千円		
					繰越額	千円	繰越額	千円					
					不用額				千円	不用額	千円		
7 年 度	要因分析	要因											
		総括											
	見直し方向性	改善	病院事業を取り巻く経営環境の悪化から、県立病院のキャッシュは枯渇しつつあり、健全経営を図る上で、本事業の必要性は一層高まっている。R8年度予算では、貸付額を7,000,000千円に増加したところ。現在、収支改善に向け全力で取り組んでいるところであるが、今後、事業年度内の最大残高不足額が増加する場合には、貸付額の増加を検討する必要がある。										

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初,2 月補正	事 項	病院事業会計負担金							予算主管課		総務課				
	事 業 概 要	病院事業の経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費や能率的な経営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費について、地方公営企業法及び総務省の繰出し基準に基づき、一般会計から負担金を繰り入れる。							始期						
									終期						
	K P I	経常収支比率													
		KPI種別	上がると良い指標		R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度				
		R 4 年 度		目標値	100 %		目標値	100 %		目標値	100 %				
		実績値	104.9 %		実績値	93.4 %		実績値	91.7 %		実績値	93.0 %			
		実績値			実績値			実績値			実績値				
		ストック /フロー	フロー		達成率	93.4 %		達成率	91.7 %		達成率	93.0 %			
	コ ス ト			最終現計 予算額	5082901 千円		最終現計 予算額	6217807 千円		最終現計 予算額	7483883 千円		最終現計 予算額		
				決算額	5043498 千円		決算額	6214205 千円		決算額	7482117 千円		決算額	千円	
										繰越額	千円		繰越額	千円	
						不用額	千円		不用額	千円					
7 年 度	要因分析	要因													
		総括 診療単価の上昇に伴い医業収益が増加するとともに、政策的医療の赤字を補填するための一般会計からの負担金の増額や物価高騰に対応するための国の財政支援により医業外収益が増加したが、物価高騰や人件費の上昇に伴い医業費用がそれ以上に増加したことなどから、経常収支は大幅な赤字となった。													
	見直し方向性	改善	本事業は、性質上公営企業単体の事業による収入をもって支弁することが困難な経費を一般会計が負担しているもので、総務省の繰り出し基準に基づき算出しているもの。県立病院は圏域の地域医療提供体制を維持・確保していくうえで必要な政策医療（不採算医療）を担っていることから、引き続き、国基準に基づいた負担を求めていくとともに、必要な見直しを行うこととしている。												

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。